

個人山行 久住山・祖母山・阿蘇山

2013年5月20(月)～23日(木)

岡本(単独)

<行程・時間>

5月20日 20:00自宅発

5月21日 6:30牧ノ戸峠→7:15牧ノ戸登山口発→8:05扇ヶ鼻分岐→8:50久住山→
9:25稲星山→9:45中岳→10:05天狗ヶ城→10:50星生山(昼食)→12:10登
山口(休憩)→ドライブ→15:20民宿(傾山登山口分岐辺り)

5月22日 6:00民宿発→6:30尾平→6:40登山口発→9:15天狗岩(休憩)→10:35祖母山
山頂(昼食、11:10発)→12:05宮原→13:55登山口

5月23日 6:00民宿発→久住山麓から阿蘇山ドライブ→8:30阿蘇山(待機)→9:20登
山口出発→10:20中岳(休憩)→10:40高岳(休憩)→11:05中岳(休憩)→
12:15駐車場→阿蘇観光、阿蘇スカイライン、湯布院→25:00自着

4月にも久住・祖母山へ行ったが、天候も悪く風邪をこじらせ高熱となり、山に登れず
に戻るという最悪の結果に終わった。今回はそのリベンジとしての再チャレンジだ。当初、
久住山、祖母山、傾山に登る予定であったが、傾山を止め阿蘇山へ行くことにした。阿蘇
山は過去にも数度来ているが、ガスの中の中岳は登ったが、高岳まで行っていなかった為、
今回、その無念も果たすことにした。

高速料金割引を狙い、前日の夜出発する。九州に渡る頃雨がぱらつく。「晴れの天気予報のはずが何てことだ！」と思
いながら走るが、朝5時が過ぎても雲がどんよりしている。仕方ないので、途中、紅葉の名所の九酔溪や長者原などで時
間を潰していると、徐々に天気が回復してくる。久住連山も霞の中から徐々に浮かび上がってくる。



7時過ぎに牧ノ戸登山口を出発するが、登山客は意外に少
ない。途中何人か抜いたが、避難小屋辺りまで行くと少し人が増える。期待していたミヤ
マキリシマは、まだつぼみが膨らんだ程度で花は殆ど咲いていない。アセビの木も多くあ
るが、咲いた気配はない。そんなことを思いながら歩いていると、正面に久住山が見えて
来る。避難小屋を過ぎ尾根に取り付く頃から少し天気が回復する。頂上は、遮るものも全
くない360度のパノラマだ。霞んでいるため、遠くの方はぼんやりとしか見えないが、
久住連山は綺麗に見える。



ここでどの山に登るか物色する。途中、
北千里浜方面は立入禁止のロープが張っ
てあったので、ここより、稲星山(次頁
左)、中岳(次頁中の右)、天狗ヶ城(同
中の左)、星生山(同右)を巡ることに
決めた。山頂は10人余りの人がいたが、
稲星山のコースに入ると人は全くいない。
登山道は少し悪路になるが、さほどのこ



とはない。むしろマイペースで歩けることが心地良い。久住山から稲星山は標高差150m程一気に下り、ほぼ同じ高度を登る。急な登りではあるが、景色も良いので気分的には楽だ。稲星山から中岳へは、なだらかな下りとなるが、登りは結構急で、上の方は少し岩場となっている。ここも150mの登りであるが、これも一気に登る。

久住山は、標高差があまりないピークがいくつもあるが、やはり最高峰に登っておかないと、何となく久住山に行ったと言う気分がしない。最高峰に来たという満足感を味わいながらゆっくりと景色を楽しむ。山頂に着いたときに1人居た人もいつの間にか居なくなっている。自分だけの時間を満喫する。



山頂から4番目のピーク天狗ヶ城とそ
の下にある御池が綺麗に見える。天狗ヶ城
までは、それ程の標高差が無いのだが、中
岳まで登ったことで気が緩み、徹夜で奈良
から九州まで走った疲れが急に出てくる。
その為、徐々に足取りが重くなる。

天狗ヶ城から久住分かれを通り、避難小屋の方へは向かわず星生崎から岩がゴツゴツした稜線を通って行く。久住山にしてはきつい道だと思っていたら、少し下に岩場をトラバースするルートがあった。が、このまま稜線の狭い岩の上をアップダウンしながら進んでいく。途中、三俣山を主峰とする北、南、西峰がよく見える。この辺りは時々ガスが噴出するため立ち入れが制限されているらしい。

最後に星生山山頂から、今日歩いた久住山からここまでを一望して下山する。



後は、久住山麓の牧草地を楽しみながら、祖母山麓の民宿までのドライブを楽しむ。

民宿の宿泊客は3名で、一人が東京、一人が名古屋と流石に百名山だけのことはある。夜は、鹿の刺身（赤身で癖はない）を食べ、杯を交わす。朝食は何時でもOKということで、名古屋の人は4時半、東京の人は5時、自分は6時と思っていたが5時半にする。

6時過ぎに民宿を出発し、尾平の登山口まで行く。登山口には既に車が6台駐まっている。早速、登山準備に掛かり、川上溪谷沿いの道を暫く行くと、宮原コースと黒金山尾根コースの分岐標識がある。黒金山コースは険しいが景色が良く



登りに向いていると書いてある。分岐からは溪谷沿いに緩やかに登る。少し行くと尾根への取付きとなり、急にきつい登りとなる。殆どが樹林帯の中で、上に行くほど笹が深くなり、景色の見えるところは殆ど無い。このコースの何処が景色が良いのか不思議だ。宮原コースは余程景色が悪いのだろうか。100m置きに標高の表示がある。最初が600mだから、祖母山までの標高差は1156mになる。途中の天狗岩までは一気に1000m程登る。尾根に出たところで展望所の標識がありそちらへ行く。そこからは、祖母山や天狗岩が綺麗に見える。そこから、折角登った山を100m程下り、少しアップダウンの尾根が続く。所々にビューポイントがあり、この辺り一帯の山が望める。しかし、湿度が高く遠くは霞んでしか見えない。



頂上手前は岩場になっていて、鎖やロープが続く。最後は急な岩場になり、少しおかしいと思ったが、登り切ってしまうとそこが頂上だった。そして、少し離れた所に下山路があり、そこで通常のルートを外れたことに気づく。まあ無事頂上に着いたことだし、まずは目出度し目出度しである。しかし、頂上まで誰一人会わなかったのが、頂上には十数人の登山客が所狭しとたむろしている。そこでは、何処へ行ったとか、行く予定だとか百名山談義で喧しく、別世界のようだ。

昼食を取り少し休んでから、今度は宮原コースを下りる。このコースは馬の背辺りで祖母山を望める以外は、大した景色は見えず、確かに黒金コースの方が景色は良いのだろう。

14時前に下山し、民宿に戻りビールを飲みながら前にどっしりと構える傾山を見つめる。昨日も2時間くらい眺めていて、今日もこうして眺めていると、何となく登る気がしなくなってきた。それに、景色も祖母山以上には見えそうにない。阿蘇山が正解だと思う。



宿泊客は1人だけだったが、朝食は前日同様5時半とする。車で走っていると、所々に古びた積石のアーチの橋や、野尻の滝、金色の麦畑など、中々風情のある景色が続く。麦畑へ行くと、キリンビールの契約の大麦



畑で「キンビールを飲みましょう。」と書いてある。

竹田から阿蘇までは一面新緑に萌える牧草地だ。窓を開け草の香りを含んだ朝の空気を思い切り吸い込み阿蘇山を目指す。が、火口ロープウェイ乗り場まで来たところで火山ガスのため通行禁止の表示だ。仕方無く、名物のジャージ乳のアイスクリームを口にしながら、周辺をぶらぶらする。暫くすると火口の方から車が走ってきて、何やら話しをしている、と、火口までの有料道路のゲートが開く。急ぎ砂千里ヶ浜の駐車場まで走る。

中岳へは、砂千里ヶ浜の南縁に沿って歩き、そこから火口壁の岩だらけの急な斜面を上り切り、内輪山の稜線に出る。ここから阿蘇の噴火口を眺めながら中岳（下写真）まで緩やかな稜線を歩く。少し霞んでいる



のであまり遠くまで見えないが、ここからの火口の眺めは絶景だ。火山ガスの為登山客も



あまり入っておらず、有名な観光地の山にしては人と殆ど会わない。少し休憩し高岳（下写真）を目指す。

高岳も人が一人居ただけで、その人も直ぐ居なくなった。暫く休憩し景色を満喫する。ここからは火口はあまり見えないが、阿蘇の最高峰だけのことはあり、

展望は素晴らしい。

時間も十分あり、後は景色をゆっくり楽しみながら下りるだけだ。下山後、火口を覗きに行こうかと思ったら突然サイレンが鳴り出す。係員が来て火山ガスの為、直ぐロープウェイ乗り場まで下るよう指示される。目的を果たした後なので素直に従う。



高速料金節約の為、吹田 I C は零時過ぎが目標だ。ゆっくり景色を楽しみながら走り、今度はミルクロードから大観峰へ向かう。ここでまた名物の濃厚なアスクリームを食べ、ヨーグルトも買う。時間もあることから、再び久住山に向かう。そこから湯布院まで行き高速に乗る。後は、時間調整しながら吹田を目指し、無事零時 6 分にゲートを通過、高速料金半額の、大満足の百名山ツアーだった。



以上